世界水泳選手権2023福岡大会・世界マスターズ水泳選手権2023九州大会報告

World Aquatics Championships - Fukuoka 2023 and World Aquatics Masters Championships - Kyushu 2023 report

原　怜来[a]

Reira Hara[a]

Key words: management, human resource development, host country
マネジメント，人材育成，自国開催

1．はじめに

世界水泳選手権は1973年から開催されており[5]，今大会は第20回目となった．2021年6月に世界水泳連盟（Fédération Internationale de Natation：FINA）の会長がHusain Al Musallam氏になると[6]，名称がFINAからWorld Aquatics（以下「WA」と記載）に変更され，国際ルールも改訂されるなど，多くの改革がおこなわれた[7]．世界水泳選手権も，これまで第何回と標記されていたものが撤廃され，今大会も世界水泳選手権2023福岡大会（英語表記：World Aquatics Championships - Fukuoka 2023）となった．

福岡市での開催は，新型コロナウイルスが流行する前の2016年に決定し，東京五輪の翌年の2021年に行われる予定であった．アジアでの世界水泳選手権が，2001年以来20年ぶりに福岡市で開催されること，そして東京五輪から連続して国際大会が自国で開催されることに，日本の水泳界は盛り上がった．しかし，2020年に新型コロナウイルスが流行すると，東京五輪も2021年に延期となり，世界水泳選手権福岡大会は2022年5月12～29日に延期となった．さらに，2022年開催に向け準備をしていた矢先の2022年2月に，WAは福岡大会を2023年7月に延期すると発表した[8]．発表時は各国の代表が決定している時期でもあり，また世界的にはコロナウイルスと共に生きるウィズコロナ生活がスタートし，日常を取り戻しつつあったため，衝撃が走った．その結果，当初の予定から約2年も遅れた2023年7月14日に開催となった．

世界マスターズ水泳選手権は，1986年に東京で開催されると2年に一度開催されている[4]．1986年では競泳のみの実施であったが，1990年からは現在の競泳・水球・飛込・アーティスティックスイミング（以下，「AS」と記載）・オープンウォータースイミング（以下，「OWS」と記載）の5種目が実施されている[4]．今大会はアジアでは1986年の東京，2019年の韓国に続いて3大会目となり，福岡市だけでなく，熊本市・鹿児島市でも行われ，3都市での開催となった．世界水泳選手権終了後から開催される世界マスターズ水泳選手権は，世界水泳選手権の延期を受け，2023年8月2日からの開催となった．

筆者は今回，OWS競技における運営に携わったことから，OWS競技の運営について自らの考えを報告する．尚，本報告は筆者個人の考えを示したものであり，組織を代表とするものではなく，利益相反はない．

2．概要

2.1. 大会テーマ

世界水泳選手権・世界マスターズ水泳選手権の大会コンセプトは「WATER MEETS THE FUTURE」で，革新的でソーシャルな大会運営をテーマにし，水泳の

[a] 日本大学スポーツ科学部
College of Sports Sciences, Nihon University

未来を作り出す大会として，そして様々な人の繋がりにより地域の未来も作るという意味もこめて作られた[3]．

世界水泳選手権では，競技会場と宿舎を福岡市に集約することで，選手の移動負担を軽減し，大会が盛り上がっている雰囲気を市全体で出すことで，効率的な運営をおこなった．一方で，世界マスターズ水泳選手権は，「する」「みる」「ささえる」といったスポーツの携わり方をより多くの方に知ってもらうため，また，参加することで経済波及効果を生み出せるよう3都市での開催となった．

オリンピックは競技スポーツの要素が強いものであるが，世界水泳選手権に加え，世界マスターズ水泳選手権をおこなうことで，スポーツの価値を日本に発信することができた．このことは特に長寿社会となっている我が国にとって，スポーツの在り方を再認識するいい機会になったと考える．

2.2. 期間

世界水泳選手権は，2023年7月14日（金）から7月30日（日）の17日間行われた．世界マスターズ水泳選手権は，2023年8月2日（水）から8月11日（金）の10日間で行われた．

2.3. 参加者

世界水泳選手権は191か国・地域から1万6,398人が，世界マスターズ水泳選手権では77か国から3万6,678人の選手が参加した．さらに，観客については，世界水泳選手権において，13万5,907人であった．また，ボランティア等を含めると来場者数は30万5,907人となった．世界マスターズ水泳選手権では約16万人の関係者が来場し，世界水泳選手権・世界マスターズ水泳選手権で来場者総数は46万8652人であった．また，チケットの販売額は7億1,000万円となった[2]．

2.4. 実施種目

世界水泳選手権は，競泳・飛込・ハイダイビング・水球・AS・OWSの6種別がおこなわれ，世界マスターズ水泳選手権では競泳・飛込・水球・AS・OWSの5種別がおこなわれた．

3．競技結果

今大会では競泳種目において10個の世界新記録が樹立された[9]．東京五輪の際には，個人種目では2個，リレー種目で4個の世界新記録樹立であった[1]ことを考えると，競技レベルの高い大会になったといえる．

日本代表選手団の結果は，ASで金メダル4個，銀メダル1個，銅メダル2個．飛込で銅メダル1個．競泳で銅メダル2個の計10個のメダルを獲得した．国別順位では6位となった[9]．前回の2022年世界水泳選手権ブダペスト大会では金メダル2個，銀メダル8個，銅メダル3個の計13個であり，わずかながら減少した．また，OWSはメダルを獲得できなかったものの，1.5km×4人混合リレーにおいて7位となり，初入賞を果たした[9]（写真1）．

今大会で最もメダルを獲得した競技はASであった．競技規則が変更となり，これまでより採点の透明性が高まった形だが，芸術性よりも難易度や正確性を重要視されるルールとなった．WAのAS委員に日本人が入っていることもあり，いち早くルール改正の情報を入手し，チームもそれに合わせた練習をしていった形であろう．

4．運営

4.1. 世界水泳選手権

4.1.1. 準備期間

新型コロナウイルス蔓延から，オンライン会議が当たり前になり，WAや世界水泳選手権実行委員会とも

写真1　OWS1.5km×4人混合リレー
（撮影日：2023年7月20日，撮影者：中條和之）

写真２　ウェアラブル端末装着している海外選手
（撮影日：2023年7月14日，撮影者：原怜来）

写真３　大雨の影響で流れ着いた流木
（撮影日：2023年7月20日，撮影者：原怜来）

頻繁に会議を行えるようになった．一方で，現場での調整は直前となり，現場にきて変更を余儀なくされる点が多くあった．

また，WAのルール変更により今年からウェアラブル端末を装着してのレース参加が承認され，初めての試みもあった．使用希望のウェアラブル端末を事前申請の上，WAが承認したもののみレースでの使用が許可された．新たな試みを試す国もあった一方で（写真２），日本チームはウェアラブル端末の使用はしなかった．国の特徴やウェアラブル端末を扱うことのできるデータ分析スタッフが選手団に入っているかなど，国としてOWS競技への強化の力の入れ方に違いが表れたと感じた．

各国選手団の宿泊場所は，競技会場が目の前にある施設とし，また国ごとにホテルをまとめるのではなく，様々な国のOWS選手団を一つの宿舎にすることで，情報伝達も含め，運営しやすいようコントロールをした．実際に，競技会場から徒歩５分で到着する宿泊施設であったため，移動車を準備する必要もなかった．また，世界水泳選手権はOWS競技において5kmや10kmといった出場種目が異なる選手がいるため，選手によって大会日が異なり，各国の選手団の中でも選手１人ずつ動きが異なる．そのため，競技会場まで徒歩で行くことができたのは，チームとしての当日の動きを考える際に，輸送時間を気にすることなく臨機応変に対応でき，余計なストレスなく過ごせたものと考える．

4.1.2. 大会期間

選手団の受け入れは7月11日より開始した．前日の大雨の影響により近くの川から流れてきた木やごみがあり，7月11日は海での公式練習が中止となり，プールでの練習に切り替えた．プールを準備していなければ，練習場所がなく混乱をきたしていたと思うが，プールを練習期間常に確保していたことから，無事公式練習を実施することができた．海の競技会場では，その後も雨が降るたびに，選手が泳いでいて危ないような木やごみが流れ着いた（写真３）が競技役員で撤去し，予定通り海での練習も実施することができた．

今回非常に悩まされたのが天気の急変であった．審判・競技役員・メディアの配置を確認する運営リハーサル中にも突如と雷雨が発生し，緊急中止となった．運営リハーサルのため，選手団はおらず競技役員だけであったが，急遽，緊急中止のシミュレーションに切り替え，安全な場所に避難させた．しかし，安全な場所の認識の統一が取れていないことが露呈し，簡易テントの下に逃げて安心している者もおり，その場で集まった人の危機管理意識をコントロールするのは非常に難しいことを感じた．各国の代表選手団がいる時，つまり英語を完全に理解できない選手・スタッフもいる時に緊急中止となった際の対応を急遽検討する必要性が明らかとなり，緊急ミーティングを開き，危機管理体制の確認を行った（写真４）．天気の急変がないか常に確認するスタッフの人員を増やし，天気図を複数人で常にチェックするようにした．そのおかげで雷雨が予見でき，公式練習時間を変更することはあった

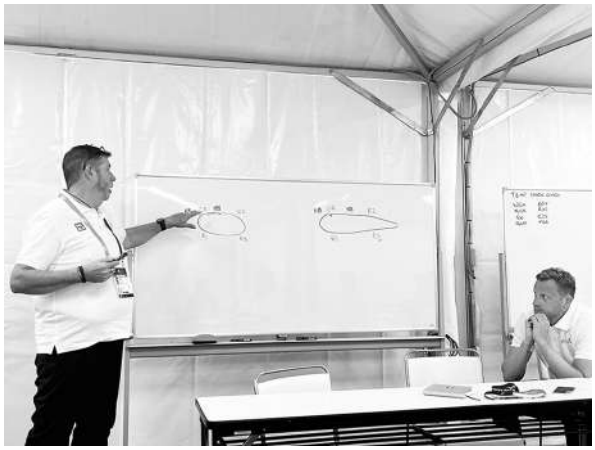

写真４　WAとのミーティングの様子
（撮影日：2023年7月14日，撮影者：原怜来）

写真５　公式練習の様子：海外コーチはSUPを使用してコーチング
（撮影日：2023年7月14日，撮影者：原怜来）

が，レース中や公式練習中などに雷雨に見舞われず，参加者を緊急避難させることもなく終えることができた．

またコロナ禍が終わり，マスクの着用義務もなくなった中，コーチから現地にて様々な要望も頻出した．例えば，公式練習の際に選手と一緒に泳いでいいか，SUPというサーフボードのようなものを持ち出し，練習に帯同していいかなどの要望があった．その場で，WAのマネージャーと確認し，選手と同じ方法で公式練習のADチェックを行った上で海に入るのであれば問題ないとして承諾した（写真５）．さらに，コロナ禍ではコーチと選手をできるだけ接触しないようにコントロールできていたが，今回からは選手とコーチが接触できるようになり，コーチやスタッフがどこまで選手と接触していいかのコントロールも明確にする必要がでてきた．その際の判断は「選手が必要と感じているか」であり，アスリートファーストを念頭に置いた運営をおこなった（写真６）．

写真６　WAマネージャーと筆者の運営判断時の様子
（撮影日：2023年7月13日，撮影者：中條和之）

最後に，大会当日にボランティアの方が来ないというトラブルも生じた．事前登録してあったボランティアの方が当日来ないために，急遽，役割配置の変更だけでなく，少ない人数での運営を余儀なくされた．これは東京五輪の際にも問題となった点であり，改めてボランティアによる運用の難しさを感じた．その中でも語学ボランティアの存在は大きく，英語が話せるボランティアの方々が各所で必要となった．年齢を問わず，語学力があるだけで活躍ができるということからも，国際大会の運営には語学力が必須であると感じた．

4.2. 世界マスターズ水泳選手権

4.2.1. 準備期間

世界水泳選手権よりあとに開催された世界マスターズ水泳選手権では，高水温対策が最重要課題となった．真夏の開催により，高水温による体への負担が大きくなるリスク，そして陸でも熱中症になるリスクが高く，どのようにすれば防げるかを考えて臨んだ．まずは熱中症対策として，できるだけ参加者を屋外で待たせないよう運営した．仮設テント内は空調設備が整っているため，屋外での運営時がスムーズにいくよう運営スタッフの拡充を図った．さらに，スタート時にぎりぎりまで水分補給できるようにすること，ゴール後には水分補給をすぐおこなえるようにすること，医務室だけでなく，ゴールやウォーミングアップ，最終ブリーフィング場所などに医者を配置し，何かあっ

た際にはすぐ対応できるようにした.

世界マスターズ水泳選手権は様々な国の人が参加すること，さらに英語が話せなくても積極的に大会に参加することから，英語だけでなく，中国語やスペイン語を話すことのできる語学ボランティアを配置した．また，語学ボランティアの数も限られていることから，標識を増やし，英語やスペイン語等で記載するという対応を取った.

4.2.2. 大会期間

大会期間において，監督者会議中に１名の参加者が意識を失い倒れるという事案が発生した．その際にもドクターが監督者会議会場にいていただいたこと，少しうずくまっていたので，スタッフが声掛けを行い，意識を失う前にドクターに伝え横にいてもらったことから，意識を失った瞬間にドクターが対応し，３名でAED等の対応を行うことができた．その参加者は救急隊到着前に意識を取り戻し，ドクターの迅速な対応のおかげであったと考える．大会期間中はその１件の救急搬送のみで，その他は大きな事故がなく終えることができた．80歳を超える方々が参加する中で，無事故で終えることができたのは準備をしっかり行ったからであると考える.

世界マスターズ水泳選手権では宿舎をコントロールしていないことから，自身で競技会場に出向く必要があり，英語が通じない場面もあったのか，公式練習時間に間に合わないなどの参加者も見受けられた．日本の英語が通じない環境下が及ぼした影響でもあるのではないかと感じている.

さらにレースにおいては，WAのスタッフが参加者全員を泳がせてあげたいという理由からタイムリミットを設けずに１日目を実施した．その結果とは言わないが，少なからず最終泳者はフラフラになりゴールしていた．１日目終了後のミーティングでは，参加者の多くが無事終わってよかったという感想しか述べなかったため，筆者は，WAに対し，危険な運営をしていると感じたという感想を述べ，明日は本日と同じ運営はしないでほしいと要望した．ディスカッションの場を設けてもらい，運営方法を安全第一の考えに変更してもらうことができた．改めて，国際会議の場において，意見があれば口に出すということ，また，YESやNOではなく，ディスカッションできる能力が必要であると感じた.

５．まとめ

本報告では，コロナ禍後の世界水泳選手権・世界マスターズ水泳選手権の運営報告と，国際大会の運営にあたりどのような人材が必要かをまとめることを目的とした.

今大会運営スタッフとして携わった結果，語学力とディスカッション能力の必要性を感じた．ヨーロッパ諸国の方々は母語が英語でなくても英語を話すことができ，またディスカッションもすることができる．国際人にとっては必須の能力であり，教育機関において，このような教育の場の必要性を感じた．また，スポーツの現場において，ボランティアスタッフに頼る運営の限界も感じ，プロフェッショナルとして人を雇用することの必要性も感じた.

さらに真夏での競技会運営により，高水温，天気の急変など地球温暖化の影響が大きくなっていることも感じた．屋外スポーツであること，特にOWSは水温が31度を超えると競技会を実施できないことから，環境問題へも興味を持ち，スポーツの力で何かできることがあるのではないかと考えることのできる人材の育成が必要であると感じた.

文献

1）公益財団法人日本オリンピック委員会：東京オリンピック日本代表選手団日本オリンピック委員会公式写真集2020，全競技結果と日本人選手の成績，株式会社ポプラ社，東京，292-301，2021.

2）日本経済新聞：世界水泳福岡大会，観客13万6,000人 チケット販売７億円，https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJC127L40S3A910C2000000/, 2023.9.25.

3）世界水泳選手権2021福岡大会組織委員会：大会基本計画，https://www.fina-fukuoka2022.org/common/img/intro/index/master_plan_of_the_championships.pdf，2023.9.24.

4）世界水泳選手権2023福岡大会：世界マスターズ水泳選手権とは，https://www.fina-fukuoka2022.

org/masters/, 2023.10.6.

5) World Aquatics：1st FINA World Championships 1973, https://www.worldaquatics.com/competitions/1099/1st-fina-world-championships-1973, 2023.9.25.

6) World Aquatics：The FINA General Congress elected a new President and a new Bureau: Husain Al Musallam elected new FINA President, https://www.worldaquatics.com/news/2166496/husain-al-musallam-elected-new-fina-president, 2023.9.24.

7) World Aquatics：FINA becomes World Aquatics as new brand launched, https://www.world aquatics.com/news/2979029/fina-becomes-world-aquatics-as-new-brand-launched, 2023.9.24.

8) World Aquatics：Press Release | FINA announces changes to international events calendar, https://www.worldaquatics.com/news/2462776/press-release-fina-announces-changes-to-international-events-calendar, 2023.9.24.

9) World Aquatics：World Aquatics Championships - Fukuoka 2023 RESULTS, https://www. worldaquatics.com/competitions/1/world-aquatics-championships-fukuoka-2023/ results? discipline=SY&disciplines=, 2023.9.25.